

報道機関各位

沖縄県立博物館・美術館 管理事務所

絵画と写真、彫刻から見る沖縄 7/10 開幕 **美術館コレクション展**

沖縄県立博物館・美術館（おきみゆー）は、7月10日（土）から美術館コレクション展として「沖縄美術の流れ」「川平恵造展」を開催します。

当館では沖縄の作家や沖縄ゆかりの作家及びアジア諸国の近代美術作品を中心に収集し「コレクション展」として展示公開しています。今回、コレクションギャラリー1では戦場カメラマンとしてベトナム戦争を世界に伝えた石川文洋氏を取り上げた「石川文洋とベトナム戦争」、コレクションギャラリー2では沖縄の心象風景をテーマに描く「川平恵造展」、コレクションギャラリー3では現代の沖縄美術を概観する「沖縄美術の流れ」を開催します。絵画や彫刻、写真から戦後沖縄を見つめる機会とします。

【展覧会構成】

コレクションギャラリー1

沖縄美術の流れ（写真）「石川文洋とベトナム戦争」

石川文洋（いしかわ・ぶんよう 1938-）は、沖縄生まれの写真家です。1964年、毎日映画社を辞めて「無銭旅行」をしていた石川が香港に滞在していた頃に「トンキン湾事件」が発生します。これをきっかけにアメリカはベトナム戦争への介入を深めます。翌年から石川はフリーカメラマンとして米軍および南ベトナム軍に同行し、ベトナム戦争を撮りはじめ、帰国後も同地を撮り続けています。本展では、石川がベトナムに滞在していた頃に撮影された約50点の写真を中心に紹介します。



石川文洋《霧の中の戦場》1966年

コレクションギャラリー2

川平恵造展

沖縄の心象風景をテーマに描く画家・川平恵造（かわひら・けいぞう 1949-）の個展を初開催し、社会と美術との結びつきについて考えます。川平はシュルレアリスムの画風から出発し抽象表現に移行していますが、一貫してクールに時代を捉えた作品です。本展では1976年から2013年までに制作された21点の作品が並び、風景や人物をテーマとする細密描写の《Now…》シリーズ、そして抽象表現を極めた《夏》シリーズを一望します。



川平恵造《夏シリーズ》1998年

コレクションギャラリー3

沖縄美術の流れ

沖縄にはその風土や歴史から生まれてきた独特な文化があり、美術も時代や置かれた状況に大きく影響されながら培われてきました。コレクションギャラリー3では、「沖縄美術の流れ」として、戦前、戦後復興、本土復帰後、移民、そして現代美術に章を分け、沖縄の近現代美術を時系列に紹介します。

前年度に収集した作品も初公開し、県外から来て美術教育に携わった作家たちによる沖縄美術への影響も考察する内容とします。



安次嶺金正《群像》1950年

〈概要〉

展覧会名：美術館コレクション展「沖縄美術の流れ」「川平恵造展」

会 期：2021年7月10日（土）～2021年12月5日（日）

主 催：沖縄県立博物館・美術館

場 所：沖縄県立博物館・美術館 コレクションギャラリー1・2・3

観 覧 料：一般400円／高大生220円／県外小・中学生100円

※県内小・中学生、70歳以上、障がい者手帳をお持ちの方および介助者1名は無料

※会期中、一部展示入れ替えがあります

開館時間：9：00～18：00（金・土は20：00）

休 館 日：月曜日（月曜日が祝日の場合は翌平日が休館）

※ 広報用画像をご希望の方は ms-kinjo@okichura.jp へご連絡下さい。

〈お問い合わせ先〉

沖縄県立博物館・美術館指定管理者（一財）沖縄美ら島財団

企画班 広報営業担当（金城・福治）TEL 098-941-1232/FAX 098-941-2392